

## 〔編集後記〕

キャンパスの梅の木も、緩暖とともに鮮やかな紅や白の花を咲かせ芳香漂わせる今日この頃となりました。社会科学ジャーナル35号がお手許に届く頃は、きっと春桜香る頃ではないでしょうか。

第35号には合計6本の論文を掲載しています。その内の一本は、大学院生からの投稿論文であり、研究所の編集委員会規定に従って、学外へ論文審査を依頼し掲載が決定されたものです。今号の特徴は、前号同様、ベテラン研究者達に混じり、大学院生をも含めた四人の若手研究者達による若さ溢れる力作揃いのジャーナルに仕上がった点です。

また、本号でも研究所で主催した公開講演会2本の要約を収録してあります。昨年11月には、上智大学社会正義研究所と共催で「日本とアジア・太平洋—歴史の共有を通じて未来へ」と題した公開国際シンポジウムを三鷹市公会堂で開きました。国内外の研究者・ジャーナリストに様々な視点からご講演・ご発言頂き、改めて外から眺めた日本の姿を再認識できる大変有意義な内容のものとなりました。また多くの市民・学生の熱心な参加によって、講演者と参加者が一体となって問題を考える貴重な機会を得ることができました。このシンポジウムの内容は、近いうちに報告書として出版することを計画しています。

最後に、次号でも若い研究者達の台頭・活躍が期待されますが、それに負けないベテラン勢の奮闘を大いに期待しています。

(功 刀 達 朗 記)